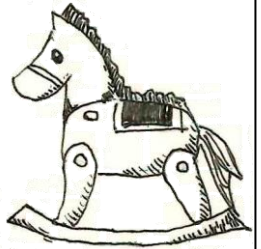


木馬

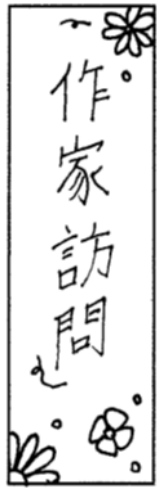


発行
2022年2月22日
No.108
都立成瀬高校
図書委員会

皆さんこんにちは！

本誌を手にとっていただき、ありがとうございます。今回の「作家訪問」はなんと「知念実希人先生」です！ほかに、皆さんに協力していただいた「思い出の絵本」アンケートの集計結果や、「図書委員のお薦め本」などが掲載されています。勉強の息抜きにでも読んでいただけると嬉しいです。ぜひ最後までチェックしてください。

(図書委員長 N・Y)



12月21日(火)の放課後、図書委員が作家さんを訪問してインタビューする「作家訪問」を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、直接訪問ではなく、オンライン(Zoom)での実施となりました。

この行事は、生徒の読書活動活性化とキャリア教育を目的に、平成29年度から年1、2回のペースで行っており、当日の司会・進行・記録を生徒が分担

して行うことが特徴です。

第8回となる今回は、「作家訪問班」の希望により、現役の医師でもあるミステリー作家の知念実希人先生にインタビューしました。以下は参加生徒による記録です(I)。

インタビューの記録

Q1 小説を書く時、文系脳と理系脳をどう区別しているのですか？

A 文系・理系はあまり関係ないと思う。そもそも医学部は職業訓練所のようなもの。勉強量が多いけれど、考えることより覚えることが多いので、普通の理系とは異なる。僕にとって書くことは職人のような仕事。ミステリと医学は謎を解く感覚が同じ。病気の原因を考えることと、ミステリなどで真相を突き止めることは似ている。だから、小説家と医者はそのなに変わらない。

Q2 本を書くときのルーティンは何ですか？

A 仕事なので、締め切りはしっかり守らなければいけないが、自分のペースでやるとそれを守れない。だから、決まったペースで計算してやっている。四、五年前から会員制の図書館で、コーヒーを一杯飲んでから十五分おきに原稿用紙一枚分を書くようにしている。

Q3 小説を書く際(初期の頃)に、トライ&エラーを繰り返したそうです。具体的にどのようになっていますか？(↑どんな感じで良くしていったのが気になる)

A どの程度描写するのか、(純文学のように)情緒豊かに表現して書くこと、どっちが合っているのかを確立するために試行錯誤した。そのことに五年ほどかかった。どちらの方が楽しんでもらえるのか自分で読んで、いらぬところはバッサリ切って自分のスタイルを確立した。

Q4 物語を書き続けるために工夫していることは？

A ニュースを見ているときや、歩いているときに思いついたことを書けるように常に手帳を持っている。人が面白いと思うことには決まりごとがある。面白いものがあった時に、これはどう

して面白いのかを読み解く。逆に、つまらないものはどうしてつまらないかを考える。そして、自分ならどう面白くするかについて考える。

Q5 ミステリを書くにあたって、好きな型はありますか？

A 読んだ人が面白く感じてくれれば良いので、なんでも(ミステリに限らず)好き嫌いではなく得意不得意で書くものを決める。心がけていることは、読んでいる人が物語に入り込めるようにすること。読者を飽きさせないこと。たとえば、物語の最初に事件を起こして「次に何が起きるのだろう」という感情で最後までもっていく。そして、読み終わった後に反芻させる。それが自分の型。

Q6 生み出したキャラクターの中で「会ってみたい人」、逆に「絶対会いたくない人」はいますか？

A 少し遠くから(外から)見るくらいが良いという程度のキャラクターを作ることが心にかけている。



Q7 キャラクターづくりで大切にしていることはありますか？

A 全ての物語で、読者が自分を投影できるキャラクターを作る。物語は、誰の視点で進むのかを明確にし、その人物と読者が一体化できることを意識する。「天久鷹央」シリーズの天久鷹央(あめくたかお)はシャーロック・ホームズを意識しているけれど、そういう人間は奇行が目立ち、感情移入しにくい。だから、ワトソンの役として、常識を持つ人物、小鳥遊優(たかなしゆう)からの視点で物語を進める。

Q8 登場人物の名前はどのように決めていたのですか？

A 日本人の名字リストが載っている本から探す。キャラと名前は合ったほうが良いと思っている。名前は、赤ちゃんが生まれたときに付ける名前の載っている本から探している。

Q9 登場人物の人格に「自分」がどのくらい含まれますか？

A キャラクターは一人ひとり違う人格を持っているので、基本的には自分(作者)は投影されない。語り手はできる限りニュートラルな常識人になっているので、もしかしたら自分はその中に入っているのかもしれない。また、僕自身、格闘技が好きなので、登場人物にさせていることが多い。

Q10 『硝子の塔の殺人』から『踊る人形』の最後の「TGG」はトリプトファン(W)だと思うのですが、終止コドンの3つにしかなかったのはなぜですか？「THINK OF AN UMBER W」の場合の意味もあるのでしょうか？ また、TGGには「終了」の意味があるのでしょうか？

A 他に指摘された間違いはあったが、この点については五人くらいが原稿を確認したので、間違いはないはず。ダブルミーニングではない。

Q11 「天久鷹央」シリーズのトリックは専門知識のない読者には分からないことがほとんどだと思いますが、話に飽きさせない工夫はありますか？

A 本格ミステリというのは、読者のもつ知識から推理することを前提としているが、それだけがミステリではない。東野圭吾さんのガリレオシリーズが良い例。僕の作品の読者は「医療」がトリックに関わっていることを知っており、その状態でどれだけ不思議な謎を提供できるか、どれだけ分かりやすくトリックを伝えられるかを意識している。必ず全員に推理できる答えである必要はない。また、読者の興味をひくために、はじめに事件の内容を提示し、「こんな事件が起こる」と伝え、事件を次々と起こしたあと、最後にすべての伏線回収という形で物語を展開している。

Q12 今まで診た、または調べた中で一番印象に残っている病気はありますか？(守秘義務に触れる場合はお答えいただけなくて構いません)

A コーラを使ったインスリンと血糖値、糖尿病に関するトリック。書いた後はすぐ忘れるのだが、誰でも罹る可能性のある病気と、身近なものを結びつけたトリックを思いついたので印象に残っている。

Q13 知念先生は通常医大卒業後5年ほどかかるという資格を約1年半で取得なさった時に、体も壊してしまつたと聞きましたが、どのようにして体調は治つたのでしょうか？

A 資格は「一年ほど早く、四年くらいで」取得した。資格を取るため勤めていた病院の仕事環境がとても過酷で、急な呼び出しでは15分で駆けつけなければならず、まともに睡眠をとれなかった。資格をとったあとは時間に余裕ができて、睡眠をとれるようになって体調も戻った。とにかく眠ること。あとは、ご飯を食べることが大事。

Q14 高校時代の愛読書は？

A 中学校から高校にかけてなんでも読んだが、赤川次郎、エラリー・クイーンなど、ほとんどがミステリ。というのも、学生時代は「新本格ミステリ」ブームで毎月のように新刊が出ていた。新本格のほかに王道アガサ・クリステイーなどを読み始めたのも中学のころ。ゆえに特に愛読書があるというわけではなく、とにかく大量に読んでいた。この時読んだ作品が今書く物語の土台になっていると感じる。

Q15 どの作品にも思い入れがあると思えますが、一つどれかを選ばれたら、どの本が一番思い入れがありますか(orオススメですか?)理由も共に教えて頂きたいです。



インタビューの様子

A 一番思い入れのある作品は、『ムゲンのi(アイ)』。愛猫が亡くなってしまうたあとで様々な思いを抱えながらも執筆した。この本の表紙には、登場キャラクターと共にクリーム色の猫が描かれている。『ムゲンのi』はチャレンジの意味を込めて、一番力を入れて書いた作品。

Q 16 高校生、または学生のうちにこれはやっておいた方が良かった事があれば是非教えて頂きたいです！

A 学生時代はとても貴重で、今思えばすごく短かったと思う。あつという間なので、時間を大切にしてほしい。勉強はもちろんだが、全力で遊んでほしい。社会人になると責任を持たなくてはいけない立場になる。そうするとチャレンジする時間が無くなる。若いうちは色々なことを感じられるし、自由な今だからこそ勉強も遊びも一生懸命にすることが大事。自分は、学生時代に合気道に本気で打ち込んだ。今役立つというのではないかもしれないが、本気で取り組んだということが大事。小説に武道の描写をするのにも役立つ。



感想】

大変貴重な経験でした！私は本を読むことが好きで小説をよく読むのですが、その小説を書く立場から物事を考えたことはほとんどなく、物語を表面だけで楽しんでいました。今回の作家訪問で様々な質疑応答をさせて頂いたことにより、どのような思いでどのようになっているかなどを知ることができ、小説を今までは違う目線で楽しめるようになった気がします。また、知念先生がとても丁寧に答えて下さり充実した時間を過ごすことができたことを大変嬉しく思います。これからも本を書いていく方々のことを忘れずに読書を楽しみたいです。

(2年 S・A)

普段自分が読んでいる本のつくり手の話の聞いたことは、とても貴重な体験でした。キャラクターづくりについてなど、いろいろな話を聞かせてもらって、今まで「読者」としてしか読んでこなかった本の世界が広がりました。自分には到底理解し得ない話も多く、聞いているだけなのにすごく頭を使っていた気がしました。それだけ、作家さんが考えていることは濃く、厚みのあるものなんだなあと改めて思いました。

(1年 M・M)

知念実希人先生プロフィール

一九七八年、沖縄県生まれ。東京都在住。東京慈恵会医科大学卒、日本内科学会認定医。二〇一一年、第四回島田荘司選ばらのまち福山ミステリー文学新人賞を『レゾン・デートル』で受賞。二〇一二年、同作を改題、『誰がため』で作家デビュー。「天久鷹央」シリーズが人気を博し、二〇一五年『仮面病棟』が啓文堂文庫大賞を受賞、ベストセラーに。『崩れる脳を抱きしめて』『ひとつむぎの手』『ムゲンのi』で、二〇一八〜二〇二二年本屋大賞連続ノミネート。『優しい死神の飼い方』『時限病棟』『リアルフェイス』『レフトハンド・ブラザーフッド』『誘拐遊戯』『十字架のカルテ』『傷痕のメッセージ』『真夜中のマリオネット』『硝子の塔の殺人』など著書多数。今もっとも多く読者に支持される、最注目ミステリー作家。

作家訪問を振り返る

- ◇ 第一回 二〇一六年 山田悠介氏
- ◇ 第二回 二〇一六年 東川篤哉氏
- ◇ 第三回 二〇一七年 似鳥鶏氏
- ◇ 第四回 二〇一八年 井上真偽氏
- ◇ 第五回 二〇一八年 赤川次郎氏
- ◇ 第六回 二〇一九年 伊坂幸太郎氏
- ◇ 第七回 二〇二〇年 香月美夜氏
- ◇ 第八回 二〇二一年 知念実希人氏

※第七・八回はオンラインで実施

日程

令和3年12月21日(火)
午後四時〜四時五十分

場所

図書室

参加者

3年 S・M、2年 A・A、
I・R、S・A、N・Y、

1年 M・M

計6名

図書委員会顧問

I・S (司書)

S・K (司書教諭)

デジタルサポーター

H・K

参観者

T・R (国語科主任教諭)
高野 修一 (校長) S 社出版部 K 氏
(オンライン・音声のみ)

本校における「作家訪問」は、平成29年の春のこと、所属する進路指導部(当時)のY先生に「(昔、都立墨田川高校でやっていた)ノウハウを提供することやってみない？」と言われたことが発端です。たぶん、今は他の学校ではどこもやっていない、とも。この「作家訪問」、当日のインタビューこそ生徒が行いますが、そこに至るまで、そして事後の連絡調整は大人が担当しています。五年間、八回を今振り返って、高校生のインタビュー申し込みを快諾してくださった作家の先生方、取り次いでくださった出版社(編集者)の方々、お世話になった皆様に、この場を借りて心から御礼申し上げます。

(司書 I・S)

思い出の絵本調査

図書委員会広報班では、「思い出の絵本調査」を行い、成瀬高校の生徒達にもっとも親しまれた絵本を調査しました。

◆アンケートの概要

対象：一年、二年の生徒 五五三名
 実施日：12月7日(火)
 方法：各クラス図書委員の概要説明後、各自がFormsを用いて回答。
 有効回答数：一九五(回答率：53.3%)

◆アンケートの結果

Q1 あなたの「思い出の絵本」はどれですか？(複数回答可)

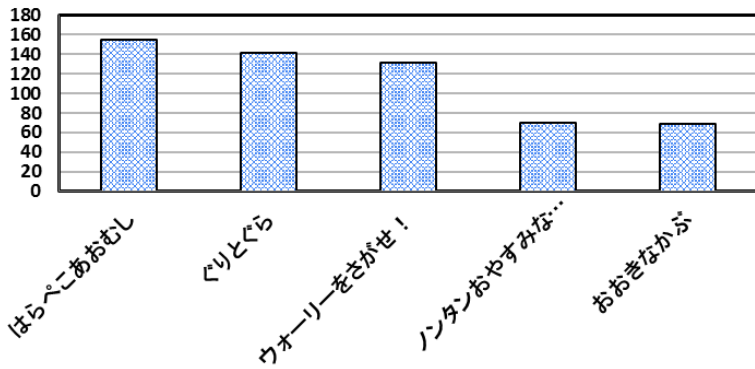
注：選択肢となる21作品は「歴代絵本売上部数ランキング／年代流行」(<https://nendai-ryuukou.com/article/072.html>)を参照して選びました。

表1、図1のとおり、第一位『はらぺこあおむし』(エリック・カール)で、一五五票でした。一位から三位、四位と五位はとても僅差でした。

やはりと言うべきか、『はらぺこあおむし』が一位。大胆な色使いと、工夫たっぷりのこの絵本は、皆さん一度は読んだことがあるのではないのでしょうか。

順位	作品名	票数
1	はらぺこあおむし	155
2	ぐりとぐら	141
3	ウォーリーをさがせ!	131
4	ノントンおやすみなさい	70
5	おおきなかぶ	69
6	からすのパンやさん	68
7	ノントンブランコのせて	50
8	てぶくろ	49
9	はじめてのおつかい	46
10	いないいないばあ	45
11	ノントン! サンタクロースだよ	43
12	三びきのやぎのがらがらどん	40
13	しろくまちゃんのほっとけーき	37
14	だるまさんが	34
15	ねないこだれだ	32
16	きんぎょがにげた	27
17	ぐりとぐらのおきやくさま	26
18	がたん ごとん がたん ごとん	17
19	しろいうさぎとくろいうさぎ	7
20	じゃあじゃあびりびり	6
21	いないいないばああそび	5
その他		52

図1 思い出の絵本(上位5作品)



Q2 Q1にあなたの「思い出の絵本」が無かった場合はここに書いてください。

69人が回答してくれたタイトルのうち、複数の人が挙げたものを次ページの表2にまとめました。なかには一人で複数タイトルを書いた人もいました。

『ミッケ!』(ウォルター・ウィック、ジョン・マルズロー)、が6票、『おしれのぼうけん』(ふるたたるひ、たばたせいいち)が5票を獲得しました。続いて『いるの いないの』、『おまえうまそうだな』、『ねずみくんのチョッキ』、『バムとケロ』シリーズ、『100かいたてのいえ』が4票で並びました。

『ミッケ!』やその他、懐かしさを感じる作品を書いてくれた人が多いように思えます。Q1で3位だった『ウォーリーをさがせ!』をはじめとして、視覚的な面白さも絵本の醍醐味なのでしようね。『いるの いないの』は意外な選出でした。



表2 Q2: Q1にあなたの思い出の絵本がなかった場合ここに書いてください。

順位	作品名	票数
1	ミッケ!	6
2	おいしいのぼうけん	5
3	いるの いないの	4
	おまえうまそうだな	
	ねずみくんのチョッキ	
	バムとケロ	
8	100かいだてのいえ	2
	くれよんのくろくん	
	じごくのそうべえ	
	11びきのねこ	
	そらめくくんシリーズ	
	ちょっとだけ	
	にじいろのさかな	
	100万回生きたねこ	
もこもこもこ		

※注: その他の48作品は1票ずつ。

★『ぐりとぐら』をお母さんが読み聞かせをしてくれた。

★職場体験のときに、『ぐりとぐら』をちっちゃい子に読み聞かせした。

★『ぐりとぐら』に出てくる大きいフライパンでホットケーキを焼くのに憧れた。

にあって本当に面白くて、さかなのウロコがキラキラしていて好きだったの。小学校のリクエストBOXにいれたら小学校でも読めるようになったこと。

★病院に行くとき必ず置かれていた『ちいさいおうち』を読んでいたの。見かねた両親が買い与えてくれた。今でも机に立てている。

★親のお気に入りの本で一時期『わたしのワンピース』しか寝る前に読んでもらえないことがあり当時は嫌いだっただけ。今ではいい思い出です。

★『おまえうまそうだな』このシリーズものには何回も泣かされた。

★特に寝る前にお母さんによく読んでもらっていた本は『これはのみのぴこ』です。お母さんの読み方が面白くてほぼ毎日飽きずに読んでもらっていた記憶がある。

★『かいけつゾロリ』が好きすぎて映画を見に行った。

★シンデレラ(ディズニー)絵本は幼稚園で読んだり小学校で借りたりしたことが多く、唯一自分の絵本として買ってもらった絵本。読んでもらったり(妹に)読んであげたりした記憶がある。

★本が苦手な時期に絵本があることで本と触れることができた。

★保育園で『はらぺこあおむし』を先に何回も読んでもらった。

★『はらぺこあおむし』幼稚園で劇をやりました。

★『はらぺこあおむし』家に唯一あった絵本。

★部屋に秘密基地を作って『はらぺこあおむし』を持ち込んで読んでいた。

★『はらぺこあおむし』でお母さんが歌を歌いながら読み聞かせしてくれたのが面白くて記憶に残っています。

★『おぞましい二人』友達と仲良くなるきっかけになった。

★バムとケロのシリーズが好きでクリスマスプレゼントでもらったことがある。一番お気に入り絵本。

★『パパ、お月さまとって!』という絵本が仕掛けがあつてとても好きだった。

Q3 絵本にまつわるあなたのエピソードを教えてください。

一六四人がコメントを寄せてくれました。そのうち35人が家族との、29人が学校や友達との思い出について書いていました。絵本は、視覚的に分かりやすく、本に細工などをされているものもあり、知育にもなり、かつ共同作業ができるという点で、幼少の子供たちの人間関係の確立に役立っているのだと思いました。

コメントのうちの一部をご紹介します(順不同)。

★小学生のときに、図書室のおばちゃんに読んでくれた『ぐりとぐら』が面白かった。

★図書館に行くとき友達と一緒にウォーリーを探してた。

★『ウォーリーをさがせ!』がよく行くお店に置いてあつて、やったのが楽しかった。

★ウォーリーを無限にやってた。ウォーリーをさがせのパズルも買った。

★『ミッケ!』で友達と仲良くできた。

★『ミッケ!』今になっても見つからないものがある。

★『ぼくブルートレインにのったんだ』は父に百万回読んでもらった。

★『にじいろのさかな』幼稚園の本棚



★読んでた絵本は大好きだったので未だに家で保管しています。

★小さい頃『ねないこだれだ』をみて寝れなかった。

★保育園で『三びきのやぎのらがらどん』の劇をやった。

★『しろくまちゃんのホットケーキ』の「やけたかな？まあまだ」のところでリズム感が好きでずっと笑ってた。

★『くれよんのくろくん』を読んで、今まで自分がクレヨンで描いていた絵を全部黒で塗りつぶした後削って火花を作りまくっていた。

★『からすのパンやさん』をよくおばあちゃんに読んでもらった。

★『からすのパンやさん』を読んだ時に、お母さんと、よくどのパンを食べたいか話してました。

★『からすのパンやさん』母がからすのパンやさんに出てくるパンを作ってくれた。

★小学生の時にエドワード・ゴーリーという作家が描いた絵本がとても怖くて眠れないときがあった。文字がなくて怖い絵だけがのっている絵本です。

★寝る前にお母さんやお父さんに読んでもらった。(ノンタンシリーズ)

★『ダヤンのたんじょうび』は初めて見た飛び出す絵本で、誕生日に買ってもらった思い出があります。

★『どんぐりむらのパンやさん』↓自分で初めて買いたいと思った絵本です。

★『せんろはつづく』は一番最初に知った絵本で、よく母親に読み聞かせてもらった本です。

★『てがみをください』はドラゼミの文章問題で初めて知って、それがすごく面白くて買って貰った思い出があります。

★『もったいないばあさん』を見せると妹が泣いてしまうのでずっと見せていた。

★小学校でたまにある絵本や紙芝居の読み聞かせが好きでした。

★絵本のおかげで本が好きになった。

★親がいない時にお兄ちゃんに絵本を讀んでもらったこと。

★『じゃあじゃあびりびり』この本は私が小さい頃に読んでいて、狂ったように笑っていたのでよく覚えています。

★『ジャッキーのちいさなおはなし』はお気に入りだった絵本で、毎日寝る前に母に読んでもらっていた。

★『おしいれのぼうけん』怖くて夜ビビりながら廊下を歩いてた。

★『おしいれのぼうけん』を読んで怖くなってお母さんにくっついて寝た。それでもまた読みたくなって怖いのがかっているのに何度も読んでいた。

★『いない いない ばあ』いつも寝る前に読んでもらっていた。

★そらまめくんシリーズは見すぎて台詞を全部覚えてしまったこと。

★『ちか100かいだてのいえ』母と読みながら次の階に住んでいる生き物が何かを当てっこしてた。

★『おおきなかぶ』一人で全員の役をやって楽しんでました◎

★幼稚園で毎月絵本が配られていて、いつも先生や親が読んでくれるのを楽しみにしていました。

★『てぶくろ』小さい頃、親や保育士さんによく読んでもらっていた。

【まとめ】 今回の調査で、絵本が好まれる独特な特徴がいくつか垣間見られたかもしれません。『ウオーリーをさがせ!』『ミツケ!』などの、視覚に訴えるアトラクションのような絵本がランクイ

ンしたり、『はらぺこあおむし』を始めとする本のページなどに細工の施された絵本などが好まれたりするようにです。Q3から分かるように、絵本は家族、友人との間で盛んに読まれるようになって、そういった面が重要になっているのだろうと思います。

(広報班 A・A、I・R、N・Y、Y・S)



図書委員のお薦め本

図書委員会・読書班は、特に本好きな人の集まりです。ここでは、読書班メンバーを中心に、図書委員のおすすめ本(短編を含む)をご紹介します。

◆「絶海の鬼ヶ島」 青柳 碧人 著
『むかしむかしあるところに、死体がありました。』所収)

この作品は、桃太郎の話をもとに、作者がアレンジしたものです。鬼ヶ島に住んでいた鬼たちの祖先は、ある日

人間の元へやってきて、食料やお宝などを盗んでいきました。その後、桃太郎とその仲間の動物たちが鬼ヶ島に上陸し、鬼たちを皆殺しにしました。しかし、生き残った二頭の鬼によって、鬼の数が少し増えました。そこで話が終わったと思いますが、本当の話はここからです。なんと、鬼が味方を裏切って見つからないように殺していたのです。その一体の鬼は、桃太郎がまた来て、暗殺したかのように殺していききました。ここからの話はネタバレとなってしまうので書きませんが、僕が読んでいた時には犯人を捜そうとして何度も読み返してしまいました。そして、話の結末を読んだ時には、思いもしない答えが出てきたためとても驚きましたが、同時にすごくおもしろい本だと改めて思いました。

(1年 K・T)

◆「自由報道の国」時雨沢恵一著

(『キノの旅』第四話)

話の内容は旅人が起こした事件を取り扱った「新聞記事」がメインとなっていて、同じ事件でも新聞社によって書いている内容が真逆のいわゆる偏向報道がテーマになっています。その旅人は本当は悪いのか、はたまた悪くなかったのか。考えながら読んでみると面白いと思います。成校の図書室にも置いてある本なので是非読んでみて下さい。

(1年 S・K)

◆「蓄音機」安部公房著

(『笑う月』所収)

「蓄音機」とは、もしかしたら誰かが隠し、溜め込んでいた感情をとめどなく吐き出し続けている機械なのかもしれない。ちょうど、多くの人々に成り代わるかのように。

主人公、そしてその従兄による残酷の数々と、それらの被害者の一人である祖父。そういった単純な関係性は、ただ一つの「蓄音機」というレンズを通して眺めることで、これ以上ないほどに難解なものへと変貌する。

一見して、人間の残酷性を表現した物語にも読み取れる。しかし、人間の脆さ、弱さ、そして御しがたさといったものが、そのようなものの裏側に見え隠れしている気がした。

(2年 I・R)

◆「おかあさんのところにやってきた猫」角田光代著

(『100万分の1回のねこ』所収)

有名な『100万回生きたねこ』(佐野洋子著)という絵本の100万あるうちのひとつの猫の一生を十三人の作家が描いた短編集の一篇です。ひとり暮らしの「おかあさん」と暮らし一匹の猫の視点から語られます。「おちびちゃん」と呼ばれるその猫は毎日毎日家の中でぬくぬくと暮らし、いい子と言

われ続ける生活を送ってききましたが、ある日外の世界を知って変わっていきます。この短編の素敵だと思ってしまうのは、「おちびちゃん」と「おかあさん」の関係が現実の親子と重なるところからです。「おかあさん」も「おちびちゃん」も自分の理想や願望を押し付け合い、嬉しかった言葉もバカらしく思えてくる。心の変化でみえてくるものが変わってくる、その描写が自分のことのように感じられます。

(2年 N・Y)

◆『かがみの孤城』辻村深月著

私がこの本を薦める理由は、多くの伏線が張りめぐらされているからです。主人公の不登校の少女は自分の部屋にある一つの立ち鏡から出てきたオオカミの少女に出会い鏡の世界へと入り込んでしまいます。そこでは同じように集められた六人の子ども達が……なぜ子供達が集められたのか、オオカミの少女は一体誰なのか、このことが全て最後の結末に隠されています。この物語の最後、腑に落ちない人はないでしょう。ぜひ読んでください。

(3年 K・Y)



◆『働く男』星野源著

私がこの本を薦める理由は、日常の中に趣を見つける独特な世界観を共有できるところです。婚約・結婚で世間を賑やかさせた星野源さんの幸せの尺度を知ることによって、自分自身の幸せの尺度を第三者の視点から見つめ直すことができるという点が、とてもおもしろかったです。アーティストなどは独特な世界観を持っているため、一見理解しにくいですが、文字として取り入れることで体感できるので、他のアーティストのエッセイもオススメです。

(3年 T・N)

◆『ガリレオの苦悩』東野圭吾著

私がこの本を薦める理由は、「探偵ガリレオ」シリーズの四作目であるこの本に、「攪乱す(みだす)」という話が収録されているからです。「悪魔の手」と名乗る殺人犯から本作主人公へ挑戦状が出されるとい内容なのですが、二人の科学者が自分の得意な分野で器量をはかりあう様子は、他の話にはない面白さがあります。また本作では「密室(とじる)」や「指標す(しめす)」など合計五本の話を楽しむことができます。理数研究校である本校にベストマッチな作品なので是非一度は読んでみて欲しいです。

(3年 N・R)

◆『ポッコちゃん』 星新一著

◆『ひと』 小野寺 史宣 著

この星新一の「ポッコちゃん」という作品は非常に有名なものですが、おそらく、この紹介文を読んでいる人の中には名前を聞いたことすら無いという人もかなりの割合でいると思います。最近では読書をしなくても増えているので当然です。ですが、そんな人にもこの本を読んでもらいたいです。この物語は、ある美人のロボットのいるパレードの出来事なのですが、まるで人間の物質を見抜いているような星新一の物語に、読んだ人はみんなギクツツとしてしまうこと間違いなしです。

(2年 H・Y)

私がこの本を薦める理由は、主人公である柏木聖輔が必死に生きている様子がとても伝わってくるからです。この本の内容は、両親をなくしてしまい、大学にも行けなくなった主人公がアルバイトを始め、その中で良い人や悪い人に会っていくという内容です。悪い人たちにいろいろな言われ、何十万円もお金にとられそうになる場面もあり、とてもドキドキしました。本の終わりが、まだいくらかでも話が続きそうなのに、終わってしまったので、続きが気になりました。元氣が出る本だと思うので、ぜひ読んでみてください。

(1年 K・T)

図書委員会からのお知らせ

成瀬高校・小川高校合同読書会

のお知らせ

一昨年度、新型コロナウイルス感染症のため中止となった小川高校との第4回合同読書会を以下の日程で、オンライン（Zoom）で行います。司会・進行は両校の図書委員会が行いますが、図書委員でなくても、生徒なら誰でも参加できます。

◆日時 3月22日（火）終業式の日

※教科書販売終了後

14時30分集合 最長16時45分

◆場所 図書室（貸切）

◆読む本 『ぼくはイエローで、ホワイトで、ちよつとブルー』（ブレ イデイみかこ著、新潮社、文庫本あり）

※時間短縮のため、事前に読んできてください。

◆申込・問合せ

図書委員会顧問（S・I）

クリスマスプレゼント抽選会実施

12月20日の放課後、図書室で恒例のクリスマスプレゼント抽選会を行いました。抽選という名前ですが、本を借りた人は誰でもプレゼントをもらえること、好評でした。

（イベント班）

編集後記

今回は久々の8ページでお届けします。恒例「作家訪問」は、医師&ミステリー作家である知念実希人先生にオンラインでインタビューすることができました。知念先生は色々なお話をしてくださり、出席者全員にとっても貴重な体験となりました。知念先生、取り次いでくださった編集者さん、本当にありがとうございます。知念先生の本は図書室にあるので、皆さん、借りて来てください！ ミステリー好きはもちろん、普段本に興味がない方も医療系に関心のある方は是非一度読んでみて欲しいです。

また、「思い出の絵本」調査の集計結果も掲載してあります。アンケート回答へのご協力ありがとうございます（スペースの都合上、上位のみの掲載となっております）。栄えある(?)第1位は、絵本はもちろん歌やグッズもある『はらぺこあおむし』でした。これをきっかけに、昔読んでいた絵本をまた読み返してみようでしょうか？ 当時とは違った新たな発見があるかも?!

（副委員長 A・A）

（イラスト／POP班 2年 I・S、T・M、TO・M、Y・S
1年 K・H、C・S）

「今日の本田くん」No.10

原案・38期 I・H / 絵・2年 N・Y

